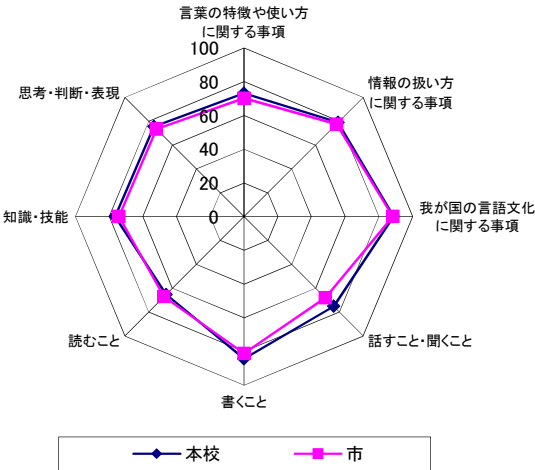


宇都宮市立一条中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.1	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	79.0	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	88.7	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	75.3	68.2	67.4
	書くこと	84.3	81.1	71.7
	読むこと	65.3	67.2	61.3
観点別	知識・技能	76.4	74.2	67.9
	思考・判断・表現	75.5	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

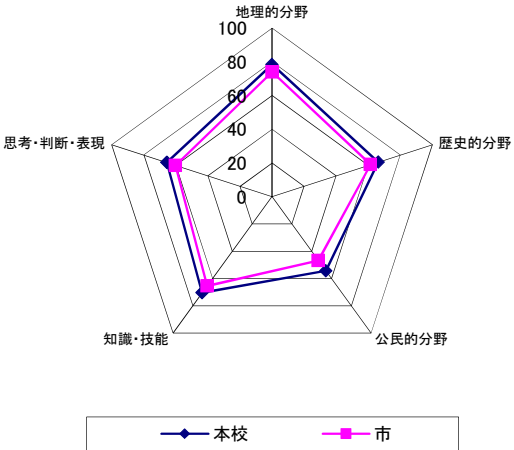
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は市の平均を1.9ポイント上回っている。漢字の読みの問題において、市・全国をやや下回ったものがあるが、漢字の読み書き、文法・語句に関する事項についてはおおむね上回っていることから、言葉に関する知識や理解が深まっていると考えられる。 ●助動詞についての問題の正答率は、市の平均を2.9ポイント、全国の平均を0.3ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文法の理解は、1学年からの積み重ねであるため、定着に向けて繰り返し指導していく必要がある。授業の中で復習の機会を設けながら、継続した学習を意識づけさせていく。 ・言葉の学習においては、説明や解説が中心になりがちなので、生徒自身が調べたり、思考判断したりできる活動を取り入れて、生徒が日常的に言葉に興味を持って使えるよう留意していく。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は市の平均を1.4ポイント上回っている。情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える問題については市の平均を0.8ポイント、全国の平均を9.2ポイント上回っている。情報と情報との関係について理解し、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫する問題についても、市・全国の平均を上回っている。 ●市・全国の平均正答率は上回っているものの、正答率は7割にとどまっている。	・情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉えたり、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫したりするなどの力をより高めるために、必要な情報を選択し、活用する活動を取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は市の平均を0.4ポイント、全国の平均を9.6ポイント上回っている。歴史的仮名遣いについての問題、現代語訳を手掛かりに古典を読む問題ともに、平均正答率がほぼ9割となっていることから、古典の学習における基礎・基本の定着が図られていると考えられる。	・古典の学習における基礎・基本の定着はおおむね図られていると考えられるので、生徒がより興味関心を高め、積極的に多くの作品や古典の文章に親しめるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は市の平均を7.1ポイントと大きく上回っている。自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する問題においては、市の平均を11.9ポイントと大きく上回っている。 ●話の展開を予測しながら聞き、自分の考えを深める問題では、市・全国の平均正答率は上回っているものの、正答率は7割以下にとどまっている。	・今回の調査においては聞く力のみでの結果になるので、話す力についてもスピーチなどの単元での学習だけでなく、授業の中で日頃から話す活動を設定し、指導の機会を充実させたい。 ・聞き取りテストを活用し、話の展開を予測しながら聞き、自分の考えを深めるなど、目的意識を持った聞き方ができるよう指導していく。
書くこと	○平均正答率は市の平均を3.2ポイント、全国の平均を12.6ポイント上回っている。特に、自分の考えを明確にして書く問題では、市の平均を4.8ポイント、全国の平均を23.2ポイントと大きく上回っている。また、指定された長さや構成で書くことについても市・全国の平均を上回っている。 ●自分の考えが分かりやすく伝えるための工夫については他の問題よりもやや正答率が低い。	・指定された条件に合わせて、自分の考えを明確にして書く力が身に付いてきていることがわかるので、さらに自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう、表現の工夫をして書くことに留意する。
読むこと	○説明的文章の読み取りにおいて、文章の論理の展開について評価する問題では、市の平均を4.3ポイント、全国の平均を10.8ポイントと大きく上回っている。 ●平均正答率は、市の平均を1.9ポイント下回っている。特に、文学的文章の読み取りにおいてはすべての問題で市の平均を下回っている。	・文学的文章の読み取りについては、文章の表現の仕方を評価する問題が特に低かったので、授業の中で作品ごとの表現の特徴に着目しながら読み進めていく。また、読書量と読む力は密接に関係があるため、日頃から読書に親しむ態度も養っていく。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	78.4	74.0	67.9
	歴史的分野	66.2	61.5	56.1
	公民的分野	54.3	46.9	40.7
観点別	知識・技能	70.4	65.5	60.6
	思考・判断・表現	65.6	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

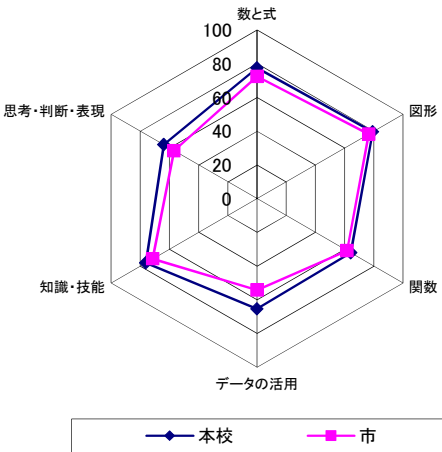
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域全体では、市の平均を4.4ポイント上回っている。問題別では、各都道府県の特徴について、資料をもとに判断する問題の正答率が市の平均を13.9ポイント上回っており、思考力・判断力・表現力を高める授業実践の成果であると考えられる。 ●世界の国々の特徴について、会話文から読み取る問題の正答率が市の平均を3.6ポイント下回っている。	○今後も、世界地図や日本地図、地球儀などの教具を用いて基礎的な知識を身に付けた上で、複数の主題図や雨温図、統計資料などから情報を読み取り、考えたことをまとめる授業を実践することで、思考力・判断力・表現力を高める。 ・与えられた資料から必要な情報を適切に読み取り、判断して解答する問題の正答率が低い傾向にあるため、資料活用 の技能を高める授業実践により力を入れていきたい。
歴史的分野	○領域全体では、市の平均を4.7ポイント上回っている。問題別では、江戸時代の政治改革の特徴について、資料をもとに判断する問題の正答率が市の平均を12.3ポイント上回っており、思考力・判断力・表現力を高める授業実践の成果であると考えられる。 ●江戸時代の大名統制について、資料をもとに判断する問題の正答率が市の平均を0.3ポイント下回っている。	○今後も、基礎的な知識を身に付けた上で、年表を用いて時代の流れを整理するとともに、各時代の特徴を理解して比較し、時代ごとの共通点や相違点についての考えをまとめる授業を実践することで、思考力・判断力・表現力を高める。 ・与えられた資料から必要な情報を適切に読み取り、判断して解答する問題の正答率が低い傾向にあるため、資料活用 の技能を高める授業実践により力を入れていきたい。
公民的分野	○領域全体では、市の平均を7.4ポイント上回っている。問題別では、日本国憲法に関する知識を問う問題の正答率が、全体的に市の平均を大きく上回っており、憲法の条文を中心に据えた授業実践の成果であると考えられる。 ●新しい人権が認められるようになった背景について考察し表現する問題の正答率が、市の平均と同様に比較的低い。	○今後も、日本国憲法や法律などの基礎的な知識を身に付けた上で、身の回りの生活においてどのように反映されているのかを検討し理解する授業を実践することで、知識・技能を高める。 ・政治や経済の内容を学習する際、時代背景とともに理解させることで、なぜそのような政策が行われているのかについて考え表現する活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.6	72.5	71.3
	図形	79.2	76.5	68.1
	関数	64.3	61.7	50.3
	データの活用	65.3	54.2	43.5
観点別	知識・技能	76.2	71.5	66.7
	思考・判断・表現	63.9	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

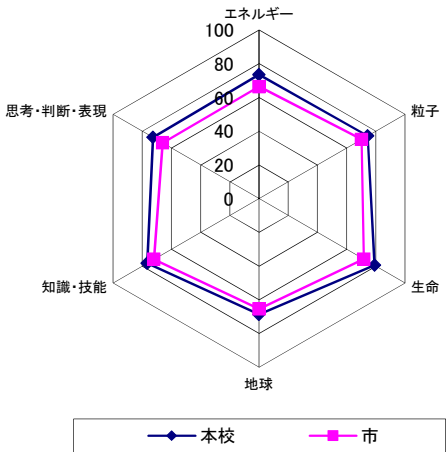
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は市の平均よりも高くなっており、前年度から大きく向上している。 ○「式の計算」の中でも、基本的な計算に関しての正答率はかなり高くなっている。 ●かっこが含まれる二次方程式の解を求めることができていない生徒が多い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・二次方程式の中でも、因数分解を利用するものや解の公式を利用するものはできるが、かっこの2乗の形になっている問題の正答率が低かった。この問題の解き方を丁寧に教えるだけでなく、解の公式が使えるように式を変形する方法など、それぞれが得意に感じている解法につなげる手段などもより示していくことで、それぞれに合った解法を身に付けさせる。
図形	平均正答率は市の平均よりも高くなっており、前年度から大きく向上している。 ○多角形の内角の和や三角形の合同条件などの2年次に学習した内容の正答率が高い。 ●三角形の高さを作図する問題が他の問題と比べると正答率が低くなっている。	・作図の内容に関しては、1年生で学習したあとは実力テスト等でできたときに復習する以外、授業の中で復習する機会がほとんどないまま3年生を迎えてしまっている。ただ作図の方法を説明するだけでなく、根拠もしっかり伝えることで、様々な問題に対応する力を身に付けさせる。
関数	平均正答率は市の平均よりも高くなっており、前年度から大きく向上している。 ○1次関数のグラフと座標軸によってできる図形の面積を求める問題の正答率が全国正答率を大きく上回っている。 ●放物線のグラフ上の点を結んでできる正方形の面積を求める問題の正答率が低くなっている。	・関数のグラフ上の点を結んでできる図形の面積を求める問題の正答率を上げるために、 ①グラフ上の点の座標を正確に把握する力 ②図形の面積を求める力の2つを身に付けさせる。 1年生の比例からつながっているので、各学年での授業の際に関連付けながら指導していく。
データの活用	平均正答率は市の平均よりも高くなっており、前年度から大きく向上している。この領域はすべての問題で市の平均を上回っている。 ○全国や市の平均と比べてみると、箱ひげ図の内容に対する理解度は高い。 ●ヒストグラムから特徴を読み取り説明する問題の正答率が他と比べると低くなっている。	・代表値の求め方などは入試の大問1に出てくるレベルの問題を解く場面を時々設けることで忘れてしまわないようにする。 ・ヒストグラムなどから情報を読み取る力、特徴を説明する力の両方を身に付けさせるために、簡単な問題から少しずつ説明をする場面を作る。授業中に生徒同士で説明し合わせたり、記述したりする練習も、教科書にある問題にプラスして取り入れる。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	73.6	66.5	61.2
	粒子	74.3	70.2	62.3
	生命	79.1	71.8	65.7
	地球	68.7	65.4	61.0
観点別	知識・技能	76.6	72.0	67.3
	思考・判断・表現	72.6	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

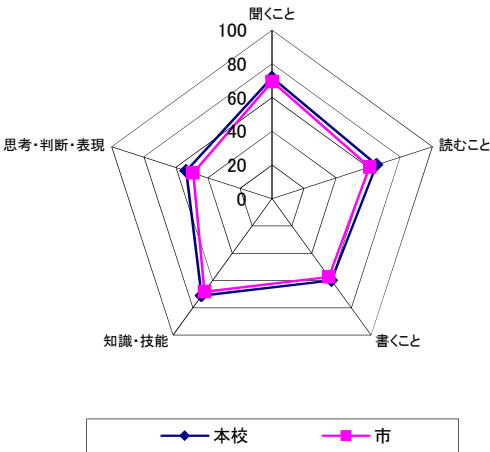
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均より高くなっており、前年度からも大きく向上した。 ○「音の性質」は全ての設問で正答率が8割を超えている。また、「電流の性質」の基礎問題の正答率が市の平均を10%近く上回っており、基礎知識が確実に定着している。 ●活用問題の正答率は、市の平均より高いが基礎問題に比べて低く、課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・他の領域に比べると基礎問題の正答率が低い。全ての生徒が基礎知識を習得できるように、導入を工夫することで内容への興味関心を高めると共に、単純な事象から規則性や原理を見出させたい。 ・基礎知識を活用する力を伸ばすために、学習のまとめとして日常生活に関連した課題を提示し、習得した基礎知識を活用して課題を解決する活動に取り組ませたい。
粒子	平均正答率は、市の平均より高くなっており、前年度からも大きく向上した。 ○実験の考察をする問題で市の平均を大きく上回っている。授業で考察を書かせる活動を充実させたことが成果に表れたと考えられる。 ●指示薬の色についての設問は市の平均より低く、理解に課題がある。	・指示薬や試験紙の色の変化は混同しがちであるため、表などに整理して理解させたい。 ・3年の内容においては、イオンの結びつき方や数の変化についての理解が不十分である。水溶液中のイオンをモデルで表現させる活動を充実させることで、化学変化によるイオンの数の変化をイメージできるようにさせたい。
生命	平均正答率は、市の平均より高くなっており、前年度からも向上した。 ○「植物の分類」、「動物のからだのつくりとはたらき」では、基礎と活用の全ての設問で正答率が8割を超えており、十分に理解できている。 ●遺伝子の組み合わせを考える問題の正答率が低い。遺伝子そのものについての理解にも課題がある。	・3年の内容においては、遺伝子の理解が不十分である。遺伝子、遺伝、DNAなど用語の意味を適切に理解するために、用語を覚えるだけでなく、その意味を説明させたい。 ・遺伝子の組み合わせについては、図に描き起こしたり、ゲーム要素を取り入れたりするなど、活動を通して理解させたい。
地球	平均正答率は、市の平均より高くなっているが、前年度より低くなった。 ○「前線の通過と天気の変化」では、全ての設問で市の平均を上回っている。 ●すべての設問において、他の領域に比べて正答率が低い傾向がある。 ●鉱物についての設問で正答率が5割を下回っており、市の平均より低かった。知識の定着に課題がある。	・1年の内容においては、知識の定着が不十分である。体験を通しての理解が難しい内容ではあるが、鉱物については実物に触れさせるなどして、時間をかけて丁寧に理解させたい。また、複数種類があるので、表にまとめるなどして知識の定着を図りたい。 ・この領域はスケールが大きいので、生徒はイメージしづらい部分があると考えられる。写真や動画、CGシミュレーションなど、視覚的な補助ができる教材を取り入れたい。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	71.8	69.4	63.8
	読むこと	65.2	60.8	55.6
	書くこと	60.0	57.5	47.8
観点別	知識・技能	71.1	68.3	64.1
	思考・判断・表現	53.5	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は71.8で市平均より2.4ポイント高いが、全ての設問において上回っているわけではない。 ○聞き取った英文の内容について、応答文を答える問題においては、市平均を上回っている。 ●対話の内容を聞き、何をしたかとたずねられて答える問題は、市平均を1.0ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日頃から、実際の場面を想定した聞き取り活動を繰り返し行い、概要や要点を捉える力を付けていく。また、聞き取る力を育てるため、口頭による対話形式での表現活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率はほぼ全ての設問で市平均を上回っており、分野全体では市平均より4.4ポイント高い。 ○メールの内容などのさまざまな英文を読み取る問題の正答率は市平均を全て上回っている。 ●対話を読み、必要な情報を把握して適切な語(句)を選択する問題は、市平均を約5ポイント下回っている	・長文は概要や要点の読み取り練習、図や表を適切に読み取らせるための練習を引き続き行っていく。 ・基礎的な語形・語法が知識として定着していないことが課題である。文法の導入時にはパターンプラクティスを多く取り入れたり、こまめに小テストを実施したりするなど、学習内容が定着する取り組みを取り入れていく。
書くこと	平均正答率はほぼすべての設問で市平均を上回っており、分野全体では市平均より2.5ポイント高い。 ○情報に基づいて書く英作文、部活動に対する自分の考えや意見についての英作文は市平均を大きく上回っている。 ●基本的な文の語順を理解し、SVOOの文を用いた単語の並び替えによる英作文は市平均をそれぞれ1.0ポイント下回っている。	・英作文は日ごろの授業のユニットごとの統合的な学習の効果がみられ、また基本的な文法で十分に自分の言いたいことを表現できたと考えられる。今後は、社会的な問題についても自分の意見や感想を述べられるよう、テーマに沿った語彙や表現方法を学習する機会を多く取り入れていく。 ・並び替えの正答率からは、英語の基礎的な語順の定着ができていないことが考えられる。日本語との語順の違いを理解させる活動を取り入れていく。

宇都宮市立一条中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的に学習に取り組む態度の育成	目標を持って学習に取り組み、学力の定着を図らせるために、学習目標の明確化と、生徒が学習の主体となる授業展開の工夫をする。 自ら計画を立てて学習しようとする態度を身につけさせるために、学習方法の指導や「自主学習ノート」を生かした指導を行う。 学ぶ喜びや達成感を味わわせ、さらに発展的に学習する態度を身につけさせるために、伝え合う力の育成に向けての学び合いの場の設定と、多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫をする。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定割合は、1年生77.4、2年生71.0、3年生83.3と、いずれも市を上回る。「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。」の肯定割合は、1年生82.5、3年生75.0は市を上回ったが、2年生72.6はやや下回った。「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している。」の肯定割合は、1年生63.5と思より8.4ポイント上回り、2年生64.5は7.2ポイント上回ったが、3年生65.2は、1.5ポイント下回った。自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の肯定割合は、1年生62.8、2年生62.1、市より上回っているが、3年生は59.1と下回っている。テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。」については、1年生80.3、2年生70.2、3年生78.0と、いずれも市より上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学習に対して自ら取り組む態度は全学年で高く、前向きな姿勢が見られる。例年続いている自主学習の取り組みにより、家庭で学習する習慣も身につけている。3年生については学習内容もしっかり身につけていることから、復習より発展的な学習を進めている傾向が高い。また、通塾率の高さから、他学年より家庭学習の時間が短くなっている。全学年、まちがえた問題は自らやり直し、着実に身につけようという意識が高い。

「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」に対し、3年生の肯定割合は88.6と高いポイントだったが、1、2年生は市からやや下回った。これまでにやってきた取り組みを継続するとともに、学習に対して興味関心をもち、苦手意識を克服して楽しく学習する工夫をしていきたい。